

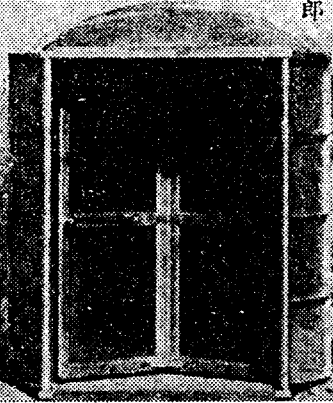
●ZIGENERWEISEN●

「ツイゴイネルワイゼン」



監督 鈴木清順
「舞台はデカクンの色濃い昭和初期……作曲家
パプロ・デ・サラサーテ自ら演奏する伝説の二
九〇四年録音盤「ツイゴイネルワイゼン」
の「ツイゴイの唄」をめぐってくりひろげ
られる悲劇……ステリーノ」

製作 シネマ・ブラセット作品
製作 荒戸源次郎
脚本 田中陽造
撮影 永塚一栄
美術 木村威夫
出演 多田佳人
藤田敏八
原田芳雄
大楠道代
大谷直子



日本映画の巨星、鈴木清順監督を供とする、大
量中の満天星雲の中に、まなびとつ新星が
生じた。その名もシネマ・ブラセット。はるな
はるブラセットから飛び立った銀色に輝くトイ
ムが、デビルス・タワーならぬ東京タワーの
真下に舞い降りる。ドームの中から流れ出るや
なるバイオリンの調べとともに、未知との遭遇
の幕が開く。

鎌倉の荒戸源次郎。元はカネボウの創
始者の別宅だったという古い屋敷。ここが
ブラセットのアトリエとなり、裏庭には銀
色のドームが春の日射しを浴びている。こ
のドームがシネマ・ブラセットの常設館と
して、まもなく東京タワーの下に出現する。
そこで上映するための3本の映画のうち、
内藤誠監督「時の娘」(鈴木清順原案)はす
でに完成し、大和屋監製の新作は準備中。
目下、鈴木清順監督「ツイゴイネルワイゼ
ン」の撮影たけなわというところである。
撮影は、鎌倉を拠点としたオールロケ。自
分たちで作った映画を自分たちの映画館で
公開するという、メジャー、マイナーを問
わず、これまでの日本映画にかつてなかつ
たシステムによる映画作りの現場には、多
くの才能がひしめき合い、さながら日本映
画の梁山泊といった様相を呈している。



■荒戸源次郎 昭和22年10月10日生まれ、博多っ
子。両親はカソリック教徒。父は五島列島の出な
ので、隠れキリシタンの末裔かもしれないとのこ
と。彼も洗礼を受けているが、踏み絵でも何で
も踏んづけちゃう日和見主義だそう。上京後、
状況劇場にもいたらしい。唐十郎と寺山修司の立
ち回りの際には、寺山と渡り合った武勇伝も残っ
ている。が、物腰は柔らかく、言葉は折目正しく、
しかも機軸のような早口でダジャレと警句をは
きながら理路整然と語る。歌劇団天象儀館を主
宰、銀ドームの劇場でミュージカルを上演。27歳
で株式会社天象儀館を設立、大和屋監製「朝日
のようにさわやかに」(日活配給)を製作主演。そ
の後、なりをひそめていたが、シネマ・ブラセッ
トを設立、数年ぶりに映画製作に乗り出した。32
歳とは思えぬ風格と気迫が漂う。天才は、忘れた
頃にやってくるのである。

——ブラセットの目的とその名の由来は？
荒戸 単純にいつちゃえば、今度の3本の
映画のために作った事務所なんです。ブラ
セットというのは、フレドリック・ブラウ
ソンのSFに出てくる狂った惑星のことです
ね。昔、査証なき惑星でもいたし、単な
る時代錯誤だと思ってるから、時代
錯誤をきちゃんとやりたいし。
——天象儀館でやった映画作りとは、つな
がってないわけですか？
荒戸 あの時、ネックになったのは、例え
ば配給問題で、独断かもしれないんですが、日
本映画の一番のよさは番組の確立だと思っ
てます。システムにのっかってやれば20
0館、日活でも80館で同時公開される。こ
れは大メリットであり、大デメリットでも
あるわけですね。というの、興行系列に
一切の映画製作もろもろまで支配されてし
まう状況ですね。だから素朴に言えば、映
画館のための映画じゃなくて、映画のため
の映画館が、1館くらいあってもいいだろ
うという発想なんですよね。
——1館で製作費が回収可能ですか？
荒戸 巨人・阪神戦の後楽園の1日分の観
客数を、3カ月にわたって集めればいっ
てことです。そういうことが起こらなけれ
ば、もうダメでしょ。TVでニューミュー
ジック流してワットと見に行く、それが今
のプロバガンダでしょ。ぼくらは正反対の
ポリシーじゃないかな。今までそれができ
なかったのは、3カ月打てる劇場がなかつ
たからでしょ。これをマイナーと呼べるな
ら呼んでみろといいたいですね。遊びです
からね、10円で遊ぶのも千円で遊ぶのも、
同じくらい熱心なつもりですけれどね。
——遊びと商売が両立しますか？
荒戸 しますね。ぼくの一歩の責務は、鈴
木さんの映画でもうけることですからね。
商売だけでいつちゃったなら、出てくるシワ
寄せはもう十分見えたし、遊びだけでやる
ことのダメさも見えたし、両立させなきゃ
いけないってことは、ごくふつうのことじ
やないですか。つまり、ごくふつうの遊び
で、ごくふつうの商売ですよ。だって、映
画ってそうでしょ。誰もお腹がくちくなくな



中央が撮影監督の永塚一栄

たり、世の中よくなったりするわけじゃないんだから。水商売といつても、バーを開店したようなつもりでやっているとわけじゃない。ぼくらは、そのひとつにすぎないわけですよ。

どくふつうのことをやっているのだ、鈴木清順が映画を撮るのはどくふつうのことなのだ、と彼はいう。しかし、そのふつうのことをやる人間がいなかったことも確かなのだ。

荒戸 ぼくがやってるんじゃないんです。やらされてる、あるいはやらせてもらってるんです。

——誰に？

荒戸 誰なんでしょうね。映画の神様ってのがいるんじゃないですかね。映画やるとお天気が左右されるから、日和見にならざるをえない。お天気が天の意向ですから、これは真理なんです。でもど都合主義になっちゃいけない。天の意向に合わせたりさからったりするのが日和見。つまり、冒險する日和見主義者になりたいわけです。

■鈴木清順 大正12年5月24日生まれ、江戸っ子。東京府立第三商業学校を経て、旧制弘前高校入学。昭和18年、学徒動員で陸軍へ。航空写真兵としてフィリピンへ送り、台湾で終戦。23年、弘前高校卒業後、松竹助監督部入社。29年、製作再開した日活へ。山村聡監督「黒い潮」の助監督につき、その時に撮った予告編が公開中止。オクラ入りになった予告編などというのは、後にも先にもこれ一本ではあるまいか。その頃からすでに彼の天才は芽を出し始めていたのだろう。43年、「難解な映画を作り会社の信用を落とす」との理由で日活を解雇される。鈴木清順共闘会議が結成され、多くの人々がこれに参加。裁判にもこまれて和解。日活での最後の作品は「殺しの烙印」。52年、「悲愁物語」で10年ぶりに映画復帰。TV作品に「木乃伊の恋」「穴の牙」「ルパン三世（監修）」などがある。弟はNHKの鈴木健二アナ。

鈴木 今度は分かりやすく撮ってる（笑）。趣旨といつても、娯楽作品を狙ってますからね、そんな大それたもんじゃないですけど、面白いゾツとするかですね。

——藤田敏八さんをはじめ、キャストが異

色というか……。

鈴木 出ずっぱりですからね、30日あけてくれる俳優さんはなかなかつかまらない。何より、藤田さんの後ろ姿、歩いているのを見るとね、その時代のニュアンスをもった歩き方、猫背で前かがみになって、なんかニヒルで、そういう感じが出てるんじゃないかと思ってる。原田さんのほうも、初めから主役と決めてかかってましたからね。

藤田敏八と原田芳雄は、ともにドイツ語学者で友人という設定。物語は「私」（藤田敏八）の視点とモノロークによって進められる。切り通しの山道を歩く「私」の姿が、各シークエンスにはさまれる。それは、異次元への往路のようであり、原田芳雄は、現世と幽界を自在に往来する邪鬼を思わせる。死後の世界を映像化すれば、こんな映画になるのかもしれない。

鈴木 ミステリーといっているかどうか、まあ怪奇ですね。日常茶飯事の中で起る、ちよつとしたことがね、生涯に災いする、そういう話なんです。——全くセットを使わないそうなんです。鈴木 作業のしにくいうちろや、上からライトをとれないという不便はありますが、その分、安く済みますね。ロケセットのひとつとして撮影に使ってる屋敷も借りものなんです。その一部と庭だけでもね、ステージにセットを組むと3000万円かかるそうです。鎌倉だと、昭和初期の実景も比較的残ってますね。

——カラーで実験的なことは、セットでないとやれないでしょう。鈴木 これが困るんです（笑）。色彩的にはできないけど、まあ、ヘンなことはやってるんですけど。どういうふうにか映るかね。この脚本を読むとね、みんなキチガイになっちゃうんですよ、各パートがね。

——田中陽造さんの脚本は、いつもできそうもないことが書いてありますね。鈴木 こっちは、おさえる役ですよ。（笑）

鈴木 どれぐらいの長さになるんですか。鈴木 荒戸さんは、2時間以上してくれていいんですがね。まあ、その時代らしきのんびり撮ってますからね。製作費は、予



定の2倍ぐらいになっちゃうでしょうね。荒戸さん流のやり方があるんですよ。一定の枠を決めて作るもんじゃないんだ。映画というのは、かかるものはいくらなんでも。野放図といえど野放図ですね。ゼイタクといえど、これほどゼイタクな現場はないだろう。それだけに、既成の企業で撮るのは逆の苦しみ監督に課せられるだろうと荒戸源次郎はいう。カメラは永塚一栄。鈴木清順とのコンビで「野獣の青春」「春婦伝」「殺しの烙印」などを手がけたカメラマンだが、今度の作品を撮れば、日本のカメラマンとしては最高齢記録となるそう。荒戸源次郎は32歳、鈴木清順56歳、永塚一栄75歳。若いスタッフの中で、鈴木監督と永塚カメラマンが、誰よりも若々しく、少年のようだという。とにかく、現在の日本映画ではこれ以上は望めない最高のチームであることに間違いない。なお、文芸坐などで上映するための予告編を、大和屋竺が監督、朝倉俊博が撮影している。これだけでも一見の価値あり。本編は4月10日より公開。みいんなで見ましょ！

原田芳雄 バースデイ・イン・タビュール



■原田芳雄 昭和16年2月29日東京築輪で生まれ、戦時中は栃木へ疎開、戦後は足立で育った下町っ子。兄弟はない。父は日本人形師。都立本所工業高校を卒業後、銀座の農業器具会社へ入社。2カ月で退社。俳優座養成所を経て俳優座入団。46年、若手座員の造反に加わって退団。一男一女の父。映画出演作は次の通り(カッコ内は監督、43年「復讐の歌が聞こえる」(貞永方久・山根成之)

44年「若者はゆく」(森川時久)

45年「反逆のメロデー」(沢田幸弘)「新宿アウトルック・ぶっ飛ばせ」(藤田敏八)

46年「野良猫ロック・暴走集団71」(藤田敏八)

「関東流れ者」(小沢啓一)「八月の濡れた砂」(藤田敏八)「告白的女優論」(吉田喜重)

47年「無宿人御子神の文吉・牙は引き裂いた」(池田一夫)「無宿人御子神の文吉・川風に過去は流れた」(池田一夫)「夕映えに明日は消えた」(西村潔・オクラになった作品だが、最近関西でのみ公開された)

48年「赤い鳥逃げた?」(藤田敏八)「無宿人御子神の文吉・黄昏に閃光が飛んだ」(池田一夫)

49年「修羅雪姫・怨み恋歌」(藤田敏八)「竜馬暗殺」(黒木和雄)「田園に死す」(寺山修司)

50年「祭りの準備」(黒木和雄)「裸足のブルージン」(藤田敏八)

51年「君よ憤怒の河を渉れ」(佐藤純弥)「やさぐれ刑事」(渡辺祐介)「反逆の旅」(渡辺祐介)

52年「悲愁物語」(鈴木清順)「はなれ警察女おりん」(篠田正浩)

53年「原子力戦争」(黒木和雄)「夜が崩れた」(貞永方久)「大笛」(中島貞夫)「オレンジロード急行」(大森一樹)「正午なり」(後藤幸一)

54年「さらば映画の友よ」(原田真人)「闇の狩人」(五社英雄)

55年「ツイゴイネルワイゼン」(鈴木清順)

TV出演作は「座頭市・幽霊が市を招いた」(さらば浪人・弱虫侍と豪傑侍の決闘)「2本とも黒木和雄」(「穴の牙」(鈴木清順)ほか多数)

48年「赤い鳥逃げた?」(藤田敏八)「無宿人御子神の文吉・黄昏に閃光が飛んだ」(池田一夫)

49年「修羅雪姫・怨み恋歌」(藤田敏八)「竜馬暗殺」(黒木和雄)「田園に死す」(寺山修司)

50年「祭りの準備」(黒木和雄)「裸足のブルージン」(藤田敏八)

51年「君よ憤怒の河を渉れ」(佐藤純弥)「やさぐれ刑事」(渡辺祐介)「反逆の旅」(渡辺祐介)

52年「悲愁物語」(鈴木清順)「はなれ警察女おりん」(篠田正浩)

53年「原子力戦争」(黒木和雄)「夜が崩れた」(貞永方久)「大笛」(中島貞夫)「オレンジロード急行」(大森一樹)「正午なり」(後藤幸一)

54年「さらば映画の友よ」(原田真人)「闇の狩人」(五社英雄)

55年「ツイゴイネルワイゼン」(鈴木清順)

TV出演作は「座頭市・幽霊が市を招いた」(さらば浪人・弱虫侍と豪傑侍の決闘)「2本とも黒木和雄」(「穴の牙」(鈴木清順)ほか多数)

48年「赤い鳥逃げた?」(藤田敏八)「無宿人御子神の文吉・黄昏に閃光が飛んだ」(池田一夫)

49年「修羅雪姫・怨み恋歌」(藤田敏八)「竜馬暗殺」(黒木和雄)「田園に死す」(寺山修司)

50年「祭りの準備」(黒木和雄)「裸足のブルージン」(藤田敏八)

51年「君よ憤怒の河を渉れ」(佐藤純弥)「やさぐれ刑事」(渡辺祐介)「反逆の旅」(渡辺祐介)

52年「悲愁物語」(鈴木清順)「はなれ警察女おりん」(篠田正浩)

映画が好きなのか嫌いなのか分からない

鈴木清順監督にインタビューしていると

ころへ、原田芳雄にも同席してもらう。

鈴木 一緒に話したらいいよ(笑)。ぼくより藤田さんと呼んだら?

何か原稿を書いてらしたので。

鈴木 何書いてんだろ?

原田 宿題やってんですよ(笑)。

鈴木 じゃ、ぼくはまたあとで。

清順さんとは何本?

原田 3本目なんです。最初が「悲愁物語」で、去年はTVで「穴の牙」をやって、それと今度の「ツイゴイネルワイゼン」と。

最初の現場では、かなり驚いたとか?

原田 ええ、こっちが事前に思いつくことなんか、すべて裏切られていくというか。

今回もそうですか?

原田 そうですね。多分に触発されたり。脚本読んで、すごい役だと思って七転八倒して……。こういうものって、いくらでも

やれるもんでしょ。際限がないから、やってる本人は分からない。見当がつかない。

そこがまた面白いんですね。

清順さんの昔の映画見えますか?

原田 何本かはね。あんまり見てないですね。昔から、あんまり映画見ないし。映画青年じゃなかったし、芝居やってた時も、ぜんぜん芝居見なかったしね。映画が好きなのか嫌いなのか、ちよつと分かんないですね。もつと見なくちゃいけないと思う時もあるんですが、どうしても続かないんですね。

ナマケ者だとも……。

原田 ほんとにそうですね。あきれますね。

何日も物を食べないこともあるとか?

原田 それは若い頃ですよ。食欲はあるんだけど、食べるためには働かなくちゃならない。働くのはめんどくさい。どうにも腹がへって働かざるを得なくなると、ちよこ



「悲愁物語」



「竜馬暗殺」



「叛逆のメロディー」

ちよこつとアルバイトして、パツと食っちゃうという、実にだらしないことを続けたことがあります。勤勉じゃないってことは、どうしようもないですね。

うらやましいような。(笑)

原田 別に、これといってやってるわけじゃないんですが、ただただ……。(笑)

時々、TVに出るのは食うため。

原田 それだけじゃないんですが……たまたまフツと風が吹くことがあって、その風向きでね。(笑)

仕事を遊ぶ？

原田 いや、選ばないですよ。(笑)

原田 この前「徹子の部屋」に出てましたね。あの番組は2度やってるんですが、しゃべるのがダメなんです。酒をどどんと呑んで、それでどうにかバランスとってるんです。ほんとにしゃべるのはダメで、自分でしゃべってて退屈しちゃうんです。

健忘症だっていうのは？
原田 悪いですねえ、物覚えは。現場のこととはわりと覚えてるんですが、映画については……

俳優・藤田敏八インタビュー

ライバルは、ウォーレン・オーツかなあ

取材に行った日、彼は39回目の誕生日を迎えた。2月29日生まれなので、ほんとは4年に1度の誕生日である。

原田 29日だったこと、最近まで知らなかった。(笑) 34歳の誕生日に突然、オヤジから電話がきて教えられたんです。役所への届けは、28日か3月1日にするらしいですね。それで自分の場合は28日なんですけど、急にいわれるとねえ。(笑)

撮影現場で誕生パーティーやることは？
原田 まあ、形だけはね。こんな盛大なのは、やったことないけど。

共演の大楠道代(安田道代)が27日、唐赤児とスタッフの1人が23日の生まれ。と

てはほとんど忘れてますね、きれいに。何かは残ってるんだろうけど。多分、残ってるんだろ、とは思いたいね。(笑) いつだったか芝居をやつて、その続編の芝居があるわけですよ。そうすると自分は同じ役で登場してくるんですが、台本をパツと開くとね、自分の役がどれだか分からない。もう、ひどいですよ。(笑) 自分でもあきれました。

自分の映画は見ますか？

原田 見てないの10本ぐらいあります。デビュー作は。

原田 それも見えてないんです。ぜんぜん覚えてない。

見ないのはなぜ？

原田 えー、なんとなく見たくない……。家でゴロゴロしてて、きつい仕事の時にはバテないですか。

原田 適当にね、体を動かしてはいますけどね。

身長、体重。

原田 175cm。体重の増減は激しいですね。今、73kgありますね。

得意なこと。

原田 何もないですねえ。

鉄道模型を作ってるでしょ。

原田 あればね、子供が好きなもので。

オモチャは好き？
原田 そうですね。子供の頃は非常に憶れてて。

不自由した思いがあるわけですか。
原田 ええ、まさにそうですね。憶れててなかなか手に入らなくて、大人になってから自分のせがれと遊んでるうちに、こっこのほうが夢中になっちゃって、それを横取りしたという。(笑)

図画工作は得意だった？
原田 好きだったですね。ひとり遊びみたいなことは、小っちゃい頃からわりとうまいほうなんです。退屈しないんです。

血筋ですか、器用なのは？
原田 どうなんですかね。器用じゃないですよ。ものすごく不器用ですよ。

じゃ、根気がある？
原田 根気というか、何ですかね。とにかくもう、せっかちなんですよ。一気に作らないと、ちよつとタイミングがずれるともう、ダメなんです。今、3mのレールを作りかけてるんですけど、これも中断しちゃって。作る時は徹底的ですね。徹夜、徹夜で作っちゃう。できちゃうともう興味なくて、人にあげちゃうんです。前に作ったのは、カメラマンの鈴木達夫さんのお宅へいってますがね。(笑)

俳優への道は断念。つまり、原田芳雄の「先輩」にあたるわけである。また、原田芳雄の映画出演作32本のうち、6本を彼が監督している。

主演の話がきた時、3日ぐらい悩んだそうだが。

藤田 3日どころじゃないよ。(笑) 初めは冗談だろうって。大和屋さんがね、末代まで残るから、ぜひ出なさいって。(笑)

脚本を読みて、自分なりに「演出」を考えたりしますか。

藤田 いや、それは最初の段階で、これあかんと思つたから、やってません。要するに、監督の考へる自分の位置が分かりませんからね。

原田さんと共演は？
藤田 俺はいいけど、向こうが困るんじや



ないかと思つてね。監督ということまで時間をかきましたね。ぼくだけじゃなく、まわりのみんなもね。

共演してみようですか。

藤田 うまいと思いますね。前は上から見

嫌なガキだったですわね、実に

藤田 敏八監督「赤い鳥逃げた？」では、

原田 芳雄は父子共演している。

原田 あれが3つぐらいの時ですね。その前に「暴走集団71」というのがあって、それでもラストカットに子供が遊んでるんですよ。あれは誰の子だったんですか？あの子は無心に遊んでたけど、こっちは、まっすぐに直視してる子供の目がほしいというんで、バキさん(藤田敏八)が、たまたま家へ遊びに来て、喧太を貸してくれなかった。それで現場へつれてって。

喧太君は、ふだん現場へは？

原田 こさせないですね。映画は全部見せてですけど、どんなものでも、誰かに頼んでつれてもらつてね。一緒に見ると、ぼくはもう……。(笑)

互いにテレますか。

原田 そうらしいですよ、向こうも。

映画見て感想をいいますか？

原田 ちょっとラストがつまらなかつたとか、言葉が乱暴すぎたとか(笑)、やつぱり的確な時ありますよ。

喧太君が生まれた時、「ドグラ・マグラ」を読んでいて恐ろしくなつたとか？

原田 いや、「ドグラ・マグラ」だけじゃなくて、いろんなことがからんでね、奴は全部知ってるという気がしてね。こっちはね、あらゆる邪気をね。怒りがましい目で見られたから、もう恐ろしかったですね。2カ月、3カ月たつてから、からつと変わりましたけどね。

下の子の麻由ちゃんの時は？

原田 そんなことはなかったですね。女も扱ってみたいと思つてましたね。(笑)

今でも、喧太、芳雄と呼びすてですか。

お父さんとかいわれませんか？

原田 えー、ないですね、へへ。上のは、

てたのが、今度は見上げちゃう(笑)。ああいうふうにするうと一瞬思ふけど、やれるわけないから。

藤田 さんの役は？

藤田 恐ろしいですよ。こんな難しい役を

外では使い分けてるようですよ。

子供もつと何か考えが変わりますか。

原田 やつぱり、あの、自分の中へ入ってきてますからね、否応なく。

責任感とか？

原田 いや、いまだに無責任にやっています。

養育する義務があるとか？

原田 そりゃ、エサぐらいはね。まあ、それほどこいことはしてやれませんがね。大変だと思ひますよ、彼らは。

原田 さん自身の子供時代は？

原田 嫌なガキだったですわね、実に。今でも嫌いですよ。可愛げのない。両親から離れるのが早かつたし……。

疎開で、ですか？

原田 いや、そういうことじゃなくて、あんまりこう、かまわれるのはもう……。自分に何かあつても相談したことないしね、ああしろこうしろといわれても絶対やらないし。

芝居の世界に入ったのは？

原田 それは、最初は自分のコンプレックスの裏返しみたいなところかな。自分でも思つてもみない、ひよんなところから。

じゃ、俳優座へ入つて初めて芝居をやつたわけですか。

原田 そうですね。ちゃんとやり始めたのは、そこからです。

ちゃんと、じゃない時は？

原田 町のね、素人の集まりみたいなところに顔出ししたりね、遊びがてら。まねごとですけど。そこで訓練というか、エチュードをやつたりしてる時にね、こう、わけ分からん、夢中になれる空間が得られるというよさですね。ふだんは人前でしゃべれなくて、対人恐怖症みたいだったからね、その反転というか。ウソの世界で一時的とは

やるんだから、次は何でもやれますよ。(笑)

原田 さんとのからみのシーンは？

藤田 もうずいぶんやつてますよ。まあ、うまくいってんじやないかな。彼は、思いやりのある先輩だから。(笑)

いえ、解き放たれる。ただただ、それがよくつて。それは、基本的には今も変わんないですね。

そういう対人恐怖症の人が、なぜセー

ルスマンなんかになろうと？

原田 それはですね(笑)、とりあえず就職しないと、どこから芝居の世界にアタックしていったらいいか、分かんなかったからですよ。それで、とにかく銀座へ勤めたいという憧れがあつたもんですから、職種は何でもよかったんです。

銀座への憧れつてのは？

原田 何となく、そこにいるとね、思いもよらぬすばらしいことがある、なんか華やかなね、イメージじゃないんですか。そういう憧れは中学生ぐらいからかなあ。

それで、銀座の歌を作つた。(笑)

原田 もう忘れちゃつたけど、実に陳腐な歌だつた(笑)。銀座讃歌ですね、へへ。会社行つて口ずさんでね、仕事しないでそんなことばかりやつてました。

それで何も売れなかった？

原田 えー、1台も。(笑)

俳優座養成所は、花の15期、ですね？

原田 へへ、ぼくは14期で入つてるんですよ。1年落第して15期で出たんです。

落第というとは？

原田 月謝滞納。(笑)

自分であきれるほどナマケ者で、自分で退屈するほど口ベタで、不器用で、健忘症で、無責任な父親で、風に吹かれて仕事をし、映画のこともほとんど知らない、と語る原田芳雄は、しかし誰よりも正直で、夢を食つて生きていけるだけの力と才能をもつた自由人なのである。どうして役者をやつてられるのか、と愚問を發すると「役者やるつてことは……抜けれないんですよ」と、ボソツと答が返つてきた。